第二回熊本大学附属図書館特殊資料展
細川重賢没後二百年記念
出　品　目　録

昭和60年11月７日～９日
熊本大学附属図書館

１．熊本所分絵図　　整理番号　赤215.5

熊本の曲輪内を11に区分した絵図、他に熊本総絵図と飽田詫摩之内屋敷絵図が附いている。各絵図には家臣の居宅を知行取・中小姓・切米取・下屋敷等色分けし、坪数が記入されている。ここでは二の丸絵図（時習館）・山崎之絵図（再春館）・向寺原建部絵図（薬園）を展示した。(96×140㎝・77×96㎝・77×147㎝)

２．時習館東西榭絵図　　整理番号　108.6.63-4

藩主細川重賢により宝暦５年（1755）熊本城内二の丸に創設された藩校時習館（文芸教授所）と東榭・西榭（武芸演習所）の建物配置図。敷地は東西約63間、南北約43間である。(92×132㎝)

３．毛介綺煥　　整理番号　赤215.41

動物図譜。制作年代は宝暦から天明頃。いろいろな場所・時期に描かれた動物を貼り混ぜた画帖で、特に貴重なのは現在は絶滅したといわれるニホンオオカミの図および計測値、宝暦８年（1758）２月矢部手永下名連石村で猟師により鉄砲で射殺されたとある。(33.5×29.1㎝)

４．群禽之図　　整理番号　赤218.48

鳥類の写生帖。シロチドリ他150羽の野鳥が雌・雄、夏羽・冬羽の区別も適格に、精密に、彩色で生き生きと描かれている。名称がすべてに記入され、現在の標準名と一致しないものもあるが価値が高い記録である。宝暦から安永頃作成された。珍らしい鳥の入手を同好の大名に依頼した手紙の控も残されている。(26.5×20㎝)

５．昆虫胥化図　　整理番号　赤215.又41

胥化とは変態のこと、昆虫の変態の過程を写生したもので、日本最初の昆虫生態図鑑といわれている。幼虫から蛹になりさらに羽化（カイワレル）して成虫になるまでを日付をいれて記録したものである。宝暦から明和期に成立。(26.9×20㎝)

６．押葉帖　　整理番号　赤215

細川重賢が宝暦８年（1758）参勤交代で帰国途中採集して作成した植物の押葉帖。標本を細い紙で台紙に固定している。採集日付と地名が書いてあるので、大名の旅程がわかって興味深い。現存する日本最古の押し葉標本であろうといわれる貴重なものである。(28×19㎝)

７．艸木生うつし　　整理番号　赤215.113

細川重賢の草木の写生帖。宝暦８年（1758）から11年にかけて作成された。五孟樹以下55種を１頁に１種づつ、採集月日と場所、名称を書いて描かれ、別に色紙に詳しい説明を書いたものが図のそばに貼布されている。(27.6×20.7㎝)

8．細川重賢書状（折紙）

整理番号　106.10.3ハ3番

明和２年（1765）６月５日付長岡帯刀他家老・中老（堀平太左衛門）宛書状。交替の目附山崎傳左衛門に托して近況報告と国元の治政を指示したもの。細川重賢は病気のため前年５月幕府に滞府願を出し翌年参勤時までの滞在を許可され江戸に在った。(43.5×57.7㎝)

9．世祿世減之書附

整理番号　107.40

藩の財政窮迫緩和策の一つとして、又新たに功績のあった家臣処遇の方策として宝暦６年（1756）閏11月出されたもの。慶安２年（1649）以前からの由緒ある家の知行はそのままとし、それ以後の新知・加祿は相続の際減額する、才能のある場合は考慮するというものである。日付の下に細川重賢の青印が押されている。(43.4×57.3㎝)

10．肥後物語

整理番号　4.5.108-1

筑前の儒者亀井道載が藩主の治政の参考にするため熊本藩の宝暦の治蹟について書いたものを、中山昌礼が寛政元年（1789）１月江戸で入手し書写したもの。熊本への伝来はこの本に始るといわれる。後、昌礼の跋文が付けられ、熊本俚談とも名付けられて流布した。(26.2×18.6㎝)

11．機密間日記

整理番号　12.1.1～

宝暦６年（1756）４月行政機構改革の一環として奉行職制の改正を行った際、堀平太左衛門の詰所に新らたに附設された役所を機密間と称し、佐貳役・根取役がおかれ藩の機密に関することを取扱った。翌宝暦７年より幕末までの機密間日記（熊本）、江戸機密間日記が残されている。(30.5×22㎝)

12．御侍帳　宝暦５年

整理番号　12.11.82

御一門・御家老以下浪人分之者迄七十九項に分けられている。堀平太左衛門は御備頭の項で「五百石大御奉行、他高千石之御役料被下之」とある。本資料の体裁は台紙に紺色紙に役職名を書いたものを見出として、その下に氏名を書いた札を貼布したものである。(18×23.5㎝)

13．本藩年表

整理番号　川端36

上巻は元和７年（1621）より延享４年（1747）５月迄、下巻は延享４年細川重賢家督相続より明治３年（1870）まで。３段に分け、上段はその年に起った事柄、中段老中名、下段奉行名。宝暦６年には諸式格職司改革、機密間等建、世祿世減之書付渡、再春館創設、堀平太左衛門大御奉行兼帯、中老職就任等の記事がある。(31×23.5㎝)

14．度支年譜

整理番号　1.4.13

細川氏肥後入国の翌年の寛永10年（1633）から天保９年（1838）迄の毎年の御蔵納・御給知の年貢の率、米双場を記したもの。上段には頭書としてその年の主要な事項が朱書されている。(30.5×21.7㎝)

15．窺帳

整理番号　10.13.1～

家老・中老・奉行等が、家中の家督・隠居・加増その他諸政務について審議の結果を連印をもって藩主に上申し、上裁を仰いだもので、藩主の認証の印をうけた帳簿である。(28.7×20.2㎝)

16．宝暦以来御勝手向御繰合之御模様大略しらべ帳

整理番号　4.4.4-2

宝暦２年（1752）から天保９年（1838）まで87年間のうち約10回年をえらび、その年々の藩の惣支出高を調べたもの。宝暦２年改正以前の出方は米429,360余石で、明和３年（1766）395,100石余、明和７年（1770）には335,800石余と支出減を計られたことが記されている。(28.3×21.1㎝)

17．櫨一件書抜

整理番号　文下17

寛文11年（1671）から文化３年（1806）までの御郡方の櫨に関する記録。細川重賢治政の安永３年（1774）６月には郡代あてに櫨実はすべて櫨方役所へ買上げの達が出された。いわゆる専売制がとられた。(26.3×19.4㎝)

18. 御刑法草書

整理番号　13.9.8

熊本藩が宝暦４年（1754）に制定し、翌５年から実施した刑法典。堀平太左衛門・清田新助・志水戈助らが編纂した。追放刑を廃して徒刑（懲役刑）を採用したこと、論理的・体系的に編纂されていること、明治新政府の「仮刑律」の手本とされたことなど日本刑法史上高く評価されている。(30.3×21㎝)

19. 拷問図

整理番号　神45印67番

縄〆・鋏・拷器・鉤・水問の５種の拷問が描かれている。拷器と鉤は幕府の石抱き・釣責に相当するものであるが、長い植木ばさみのような道具が種々の拷問に使われているのが特長である。(39.5×267㎝)

20. 刑法方諸帳

整理番号　13.9.14～

細川藩の刑罰については宝暦５年（1755）画期的な「御刑法草書」の制定・実施により今日までぼう大な司法記録が残されている。今日の供述書にあたる口書をはじめ死刑一巻帳・追放帳・小盗笞刑・除墨帳、人命・闘殴・詐偽・盗賊・出奔・姦犯・御定法背・雑犯等、刑罰別・犯罪別の記録である。

21. 時習館学規

整理番号　108.6.63-2

宝暦５年（1755）１月、藩主細川重賢の命により熊本城内二の丸に文武講習所として開校した藩校時習館の学則13項。初代教授秋山玉山撰。巻初に「時習館図書之印」が押印されている。(30.6×22.4㎝)

22. 再春館会約

整理番号　12.9.22-1

熊本における医学校として宝暦６年（1756）12月細川重賢によって創設された再春館の教育方針およびその方法（科目・日課）を説いたもので、翌７年正月、村井見朴撰。秋山玉山撰の時習館学規と双璧をなすものと高く評価されるものである。(14.8×18㎝)

23. 学校方格帳

整理番号　108.6.63-7

宝暦４年（1754）10月15日学寮設置命以降幕末まで学政を掌る学校方へ出された規則の通達を記録したもの。学校の名称・学生・教育内容・教育方法等の他、学校敷地・学校経営すべてにわたっている。(31×22.5㎝)

24. 御茶道 医業吟味役 再春館師役等

整理番号　12.9.22-2

再春館の歴代の役職員、医業吟味役、再春館師役、再春館御目附并御薬園請込、御医師触役、御次御医師の履歴書。再春館にはこの他句読師（師役に昇格するものが多い）、引経師、医員（各科）等の職員が居た。(26.5×19.5㎝)

25. 宬籍考

整理番号　4.5.160

時習館所蔵書籍目録。序文は明和２年（1765）眞島秀長。蔵書を12に分類し、総冊数13,495冊とあるが、現在残っているのは、経籍、諸子、歴史、詩文、天文、暦算、字書、兵書で、類書、神書、歌書、雑書が欠けている。明和・安永期に追加して所蔵された分も記入されている。(27.4×19.3㎝)

26. 尚書正義版木

細川重賢創設の藩校時習館で幕末印刷出版された中国古典籍尚書正義の版木。幕府が諸藩に古典の刊行を奨励した時、熊本藩では既に原本が中国で亡び、足利学校本のみとなっていたこの尚書正義をえらんで覆刻した。版木は桧板で両面に刻まれ１枚が４頁分に当る。(23.5×45.5㎝)

27. 重賢公御詩稿

整理番号　106.10.17

春・夏・秋・冬・雑の５冊に分けられた細川重賢の漢詩集。鸞嘯閣と印刷された用箋に書かれ、全部で442首。細川重賢の漢詩は徳川諸侯の漢詩を集めた『歴朝詩纂』にも20数首採択されており、当時の優れた漢詩人のうちにあげられ、数多くの漢詩集が残っている。(26.4×18.6㎝)

28. 世説新語補

整理番号　赤203.40

細川重賢は参勤交代の折も必らず典籍を携え、又秋山玉山等の儒者の講義を聴くなどしたが、最も愛読したものが世説新語補といわれる。携帯に便利なように蓋附の箱に入れ紐を附けて肩にかけられるよう作られている。宝暦２年（1752）から天明４年（1784）まで幾度となく読まれ、朱墨の書き込みが多い。(25.8×18㎝)

29. 韻選

整理番号　108.4.10-11

細川重賢著。鸞嘯閣蔵本。鸞嘯閣は江戸竜口邸にあった建物の名称。詩や韻文に用いる平声韻字1,281字を選び解説を加えたもの。序文は秋山玉山。宝暦７年（1757）７月刊行。版下江戸青山九皐。(16.3×9.7㎝)

30. 雑事紛冗解

整理番号　4.1.58

いろいろな事項についての解説をイロハ順に記載した熊本版百科事典。安永・天明頃作成された。上巻はいなは・入頼（いりかは）・入口とイからクまで、中巻はヤからスまで、下巻には雑事、例えば稲の名、上方中国御料所稲名104種、関東北国34種、肥後は516種とそれぞれの地名をあげるなど精細に記述されている。(24.7×18.8㎝)

31. 学花集歌仙

整理番号　108.4.10-20

安永７年（1778）７月13日、江戸竜口邸の鸞嘯閣で行われた歌仙俳諧。細川重賢は俳名を華（花）裏雨と号した。細川重賢の「人音を互に聞や薄原」を発句に、華裏雨、柳江、存義、葵乞、李井各７句、執筆１句、計36句が華麗な墨流し模様の折紙に書かれている。(36.4×53㎝)

32. 重賢公御発句短冊

整理番号　108.6.60-75

細川重賢の俳名は華裡雨。華は花、裡は裏と書かれることもある。「曇る日や暗かうへの夏木立」は安永９年（1780）10月江戸で逝去された静證院（細川宗孝室　細川重賢養母）の死をいたみ、翌天明元年（1781）４月参勤で江戸に登った時詠まれたものである。(35.9×5.7㎝)

33. 御枝折および御机上之御卦算

整理番号　108.4.10-17

細川重賢遺愛のしおりと文鎭。しおりは板や紙に絹布を貼り付けたものに房をつけ、桜、梅などの絵を描いたり、西行の「吉野山去年のしをりの道かえてまだ見ぬ方の花を尋ねむ」の歌が表裏に書かれたりしている。卦算は文鎭のこと、金襴で作られた絢爛で優美なものである。(しおり　22.7×5.6㎝～11.5×4.5㎝　卦算　21.5㎝)

34. 霊感院様御集遊され候眞珠等

整理番号　108.4.10-18

霊感院は細川重賢の諡号で、眞珠、蜆珠、石花玉、牡蛎玉の標本。宝暦から安永期に採集されたもの。一個ずつ入れ物を作成し保管されている。眞珠については明和４年（1767）、宇土・戸馳・三角に於て養殖を試みたとの記録がある。

35. 霊感院様御懐中日記

整理番号　107.37.40

宝暦11年（1761）から天明５年（1785）まで25年間の細川重賢の日記帳。10月26日死去された天明５年は７月15日迄記入されている。行事の他、読書・能・鳥等の記事が多い。縦型は２冊、その他の23冊は横型で、用紙は印刷されたものにそれぞれ表紙を附けてある。(9×17.2㎝～12.8×18.8㎝)

36. 重賢公御生年暦

整理番号　108.4.10-8

細川重賢誕生の享保５年かのえね（1720）の貞享暦。折り暦形式の伊勢暦。貞享暦は、貞観４年（862）以来使われていた中国渡来の宣明暦に代わって、日本暦学の祖といわれる安井算哲が貞享元年（1684）作成し、勅許によって採用された暦である。(30.5×144.5㎝)